
Doubt ～偽りの笑顔～

未知

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

Doubt 偽りの笑顔

【Nコード】

N9568Y

【作者名】

未知

【あらすじ】

（お前らは何者なんだ？）

（彼方たちは何者のですか？）

始まりは一つの疑問。

今まで団結力と絆で数々の危険を乗り越えてきた少年探偵団。
しかし、固く決して壊れないはずの彼らの絆は・・・

とても脆いものだっただ。

同年代の子達よりも優秀な頭脳を持っているがゆえに、お互いがお互いを疑いだす。コナンと哀、歩美と光彦、そして元太・・・

分裂する探偵団。

日々激しさを増す探りあいによる攻防。

ついに歩美と光彦がコナンと哀の正体を突き止める！？

更に明かされる歩美と光彦の隠された暗い過去と今。そして彼らの両親の裏の顔。

鍵を握るのは“偽りの笑顔”

彼らの偽りのなかにあった封じられた本来の笑顔に、コナンと哀は気づけるのか・・・

D o u b t 〓 疑い

プロローグ（前書き）

これは、少年探偵団中心のstoryです。

その中でも、コナン・哀・歩美・光彦が主役です。

今回は元太は少なめです。

彼には、この物語の後でバンバン登場してもらおうと思っています。

ブローグ

「お前らは何者なんだ？」

「お二人の方こそ何者なんです？」

なぜ？

「まさか・・・」

「そのままかですよ」

「うんうん？」

「ウソでしょう・・・」

「事実なんだね」

両者に提示されたもの・・・

それは・・・

「もう誤魔化せないよ」

「認めてください」

悲しすぎる現実・・・

「貴方たちは工藤新一と宮野志保なのでしょう?」

すべての始まりは・・・

「――!!お前らはいつたい・・・」

「何者なの・・・？」

偽小学生二人と・・・

「そんなに聞きたい？ 私たちの過去と・・・」

「正体を・・・」

「私（僕）たちは偽りの中で生きるしかなかったのよ（ですよ）」

普通の小学一年生のフリをするしかなかった二人が・・・

「今まで黙っててゴメンネ？」

出会ってしまったこと・・・

ねえ
・
・
・

“私たちは誤魔化せる”
とでも
・
・
・

思ってた？

プロローグ（後書き）

「あの頃のように、もう一度」の連載が終わっていないのに、書いてしまっている馬鹿な未知です（笑）

受験が終わるまで不定期更新になるとおもいます。

あと、これは黒の組織も関わってきます。

ではまた次回

未知

Test result (前書き)

まだ1話めだけなのに、評価・お気に入り登録してくださった方本当にありがとうございます！！

題名変えました。内容は変わっていません。

2011.12.6

Test result

～ 帝丹小学校 ～

1 - B 教室ではこの間やったテストの結果と順位が書かれた紙が配られていた。

「次、江戸川君」

「はあゝい」

気の抜けた声とともに立ち上がったコナン。

そのまま紙を受け取り席に戻っていく。

その様子を見ながら担任である小林先生は次の者の名を呼んでいく。

「小嶋君」

「はい!!」

コナンとは違い元気に返事をする元太。

それを見て苦笑しながら推理小説を読むコナンに右隣の席の歩美が聞く。

「コナン君どうだった？」

「ん？ああ、まだ見てねーよ」

「じゃあ歩美たちのも返ってきたら皆で一斉に見せ合わない？」

「別にいいぜ」

「僕もいいですよ」

「私もいいわよ」

コナンの後に答えたのは光彦と哀。

二人は光彦がコナンの前の席、哀はコナンの左隣の席。

当然会話は聞こえている。

歩美も光彦と哀に聞こえるように言っていた為笑顔になる。

「元太君は？」

ふと歩美は先程紙を貰っていたが何にも言わなかった元太に問
いかけた。

「お、俺もいいぜ！」

「円谷君」

「あ、はい！」

気がつけばもう“つ”まで呼ばれていた。

今まで話をしていたため光彦は少し慌てながら小林先生のもとへ向かう。

「灰原さん」

「はい」

光彦が呼ばれてから一分後、哀が呼ばれた。

「吉田さん」

「はい！」

哀が呼ばれてから数分後、やっと歩美の名が呼ばれる。

元気よく返事をし、笑顔で席へ戻ってくる歩美。

その後、全員に配り終えた小林先生はクラスの皆に連絡事項などを言い教室を後にする。

もうクラスのほとんどが下校の準備を終わらせており、後は帰るのみの状態だった。

そんな中、コナンたち少年探偵団の五名はコナンの机に集まっていた。

もちろん片手には先程の紙を持っている。

「それじゃあ一斉に・・・」

「せーの！」

バツ

一斉に他の者の順位を確認していく。

それぞれの順位は・・・

元太
230人中212位

歩美
230人中4位

光彦
230人中3位

コナン 230人中1位

哀 230人中1位

各教科の点数は、

5	元太	国語	20	算数	18	理科	2
	社会	39					

	歩美	国語	98	算数	100	理科	98
	社会	100					

	光彦	国語	100	算数	100	理科	100
	社会	98					

	コナン	国語	100	算数	100	理科	100
	社会	100					

0	哀		
社会	100	国語	100
		算数	100
		理科	10

「わあ〜！すごいね哀ちゃん！コナン君！光彦君！」

「歩美ちゃんもすごいじゃねーか」

「さすがですね・・・」

「すげーな。どうやったらそんな点数取れんだよ」

「「「「・・・」」」」

さっきまで喋っていた四人は元太の一言に黙る。

（実は高校生です・・・なんて言えねー）

その中でもコナンは内心焦りまくっていた。

「元太君・・・勉強しましたか？」

「いや、してねーぜ!」

「・・・・ハア・・・・」

あまりにも笑顔だったので一同苦笑い。

四人とも思わずタメ息である。

（アハハ・・・。俺は小学生のとき勉強なんてしなかったけどな・・・）

（まあ普通勉強なんてしませんよね・・・）

（小学一年生で勉強なんてしないよね・・・）

（・・・）

皆考えていることは同じ。

そんなこんなでとりあいず下校するコナンたち。

しかし、彼らはまだ気づいていなかった・・・

普通の小学一年生は勉強なんてしないと云うことに・・・

Test result (後書き)

やっとテストが終わりました

けれど提出しなければならぬ物がたくさん・・・

ここ数日は徹夜です・・・

読んでくださった方ありがとうございます！

それにしても・・・

元太の扱いが少し酷いですね・・・（笑）

次回もヨロシクです

未知

Thought (前書き)

Thought 思案

Thought

く
帰り道
く

いつものように、前列に歩美・光彦・元太、後列にコナン・哀の並びで各自の家へ帰る。

いつもは話に花が咲くのだが今日は無言が続いていた。

コナンと哀は元々あまり話していないが、今日は一言も話していない。お互いがお互いとも何か思案している。

歩美と光彦は何を考えているのか完璧に上の空だった。

元太は元太で夕飯のことについて考え中のため自分の世界に入っている。

元太以外の四人が今思っていること・

それは・

先程のテスト結果を五人で見せ合っていたときの会話。

（何か可笑しい気がするわ・・・）

（何か重要なことを忘れている気がする・・・）

(何か可笑しい・・・何だろう・・・?)

(なにか違っている気がします・・・)

四人が感じているのは“違和感”

だが、その違和感が何なのか解らない・・・

それで思案としては違ふと思い・・・の繰り返しだった。

「なあ……今日どうすんだよ？」

そんな中、一人食べ物について考えていた元太がふと歩美・光彦に尋ねた。

「……………え？」

思案中だったためかすぐに反応出来なかった二人。

「な・・・何がです？」

当然元太が何の事について言っているのか見当がつかないため
光彦が聞き返す。

「だから今日これからどうすんだよ？」

「あつ」

忘れていたが、今日は金曜日。

子供たちにとっては嬉しいことである。

元太が言いたかったのは「今日これからどうやって遊ぶか」と言うことである。

金曜日に限らず毎日サッカーや野球・少年探偵団などを放課後にやっている彼ら。

しかし、今の歩美と光彦は遊ぶ気が少し失せていた。

このままにしてしまえば今自分が抱いている違和感はそのまま。

しかし、元太たちと遊ぶのも楽しいのでどうしようか・・・

けれど、やはり少年探偵団たる者疑問や違和感などはそのままにせず、しっかり解決せねば・・・

そんな中途半端な思いが渦巻く・・・

「ねえコナン君！哀ちゃん！」

迷ったあげく、歩美はコナンと哀の意見を聞くことを選んだ。

「……………」

しかし、彼らからの返事はない。

先程の歩美や光彦と同じく何かを思案中のよう。

「コナン君！灰原さん！聞いてますか？」

光彦も歩美と同じ選択をした。

「…………えっ！？……な、何？」

「・・・へっ！？・・・な、何だ？」

同じような返事をした二人。

「今日これからどうしよっか？」

「あー・・・。今日は俺パス」

（帰ってから考えよう・・・）

「私も・・・」

（この違和感・・・本当に何なのかしら？）

「えー何でだよ？」

遊ぶ気満々であった元太がコナンに聞く。

彼の脳内に『遊ばない』という選択肢はなかったらしい。

「あー今日は宿題が大量にあるからな。今日中に終わらせようと思っ
てさ・・・」

「あら。私も江戸川君と同じことを考えていたわ」

本当はコナンと哀ならば宿題なんてそんな時間はかからない。

・・・が、本当のことなんて言える訳がないのでとっさに言い訳をする。

「あ！そうだね。今日はいっぱいあるもんね」

「じゃあ、今日は止めましょうか」

そのことに納得した歩美と光彦もコナンたちの意見に賛成する。

しかし、元太は納得しなかったのか意見を言う。

「でもー。別に宿題なんていいだろ？俺たちまだ小学一年生なんだからよ」

本人は本心と言ったつもりだが、それが逆に『遊ばない』という意見に拍車がかかってしまった。

「「「「!!!」」」」

(なるほどね・・・)

(それだわ!!)

(そうです!!)

(それだ!!これで・・・)

(
(
(
(違和感の正体が判った(わ)
(判りました)!!!!)
(
(
)

「やっぱり今日は止めときましよう」

「
そうね」

「
ああ。さっさと宿題終わらせよーぜ?」

「
そうだね!元太君、また今度にしよう?」

「
・・・分かったよ」

元太も折れ、今日の遊びは中止となった。

「またね！」

「ええ！」

「おう！」

「じゃーな！おめえら！」

「また明日」

そして、彼らは各自の自宅へと続くそれぞれの道を歩いていく。

これが・・・

仲間として・・・

団結して・・・

活動してきた少年探偵団の・・・

彼らが・・・

五人が五人とも少年探偵団であつた最後の日……

この日から・・・

彼らの関係は変わっていく・・・

Thought (後書き)

誤字や脱字・言葉の使い間違いなどありましたら指摘していただけると嬉しいです。

ではまた次回

未知

c o u n t d o w n ｝ A y u m i ｝ (前書き)

暫く更新しなくてすみません・・・。

今回は歩美sideです。

c o u n t d o w n } A y u m i }

歩美 s i d e

「ただいま〜!!」

あれから、コナンたちと別れた歩美は自宅へ戻っていた。

「お帰りなさい、歩美」

「ただいま！お母さん！！」

歩美は自分の部屋へと行く。

そして背負っていたランドセルを置き、ベッドへダイブする。

そして思い出すのは・・・

笑顔で出迎えてくれた母・・・

今まではそれが嬉しかった。

けど、今は・・・

嬉しくなくなつた・・・

笑顔に隠された裏の顔を、

お母さん ほんとう
彼女の真実の姿を知ってしまったから・・・

お母さん
彼女だけじゃない。

お父さんのことも知ってしまった・・・

そして・・・今、自分がどんな境遇に居るのかということも・・・

何もかも・・・

知ってしまった・・・

(本心じゃあそんなこと思っ
てないくせに)

(知ってるんだよ？何もかも
・・・)

「あ。そういえば・・・」

歩美は今日の出来事を思い出す。

（コナン君・哀ちゃん・光彦君・・・彼らは何かを抱えてる・・・）

（そう、私のように・・・）

(- - - ! ! ちょっと待って ! !)

(もしかしたら ・ ・ ・ もしかしたら ・ ・ ・ 充分有りうる ! !)

歩美はベッドから起き、次の瞬間には・・・

何かを決心した・・・そんな表情を浮かべていた。

（もし・・・もし違っていたら巻き込んでしまふことになるけど・・・少しでも可能性があるのなら・・・）

歩美は自分の部屋を出て、リビングへと向かった・・・

c o u n t d o w n ｾ A y u m i ｾ (後書き)

次回は、光彦 s i d e を予定しています。

読んでくださった方、ほんとにありがとうございます!!

次回はなるべく早く更新できるよう、努力します・・・。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9568y/>

Doubt ～偽りの笑顔～

2011年12月19日17時49分発行